



# 愛光NEWS

## 2019年12月

2020（令和2）年1月16日発

（編集）愛光本部総務部

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

2020年はどんな年になるのでしょうか。本年の話題は何といっても、東京オリンピック・パラリンピックでしょうか。準備の段階から話題の多かった東京五輪でしたので、期待と注目はさらに大きくなることと思われます。また阪神淡路大震災から、四半世紀が経過しましたが、昨年は千葉県を中心に台風等の災害に襲われました。災害に対する心構えや準備も求められることと思います。

皆さまにとって、この1年が穏やかな年になりますよう祈念しております。

### □事業経過など（2019.12.1～）

月/日(曜)	記 事
12/1(日)	道路交通法改正（ながら運転厳罰化）
3(火)	～7日（土）韓国ラファエルの家へ職員派遣研修（職員5名）
4(水)	業務執行理事会・保健所栄養食品監査（障害者事業部・高齢者事業部）
8(日)	評議員会
9(月)	第200回臨時国会閉会
11(水)	サービス責任者会議／愛光千視協グループ法人協議会
12(木)	中堅職員研修／内部統制構築委員会（第8回）
12(木)	2019年漢字「令」に決定
13(金)	2020年度採用職員施設見学・懇親会
15(日)	ほっとタイムコンサート（南部児童センター／本館ロビーコンサート）
16(月)	2020年度新卒採用試験（第4回）
18(水)	光道園視察研修（～20日（金）・理事長他2名：福井）
18(水)	地域食堂ともいき
19(木)	はちす苑増築工事完了引き渡し
20(金)	広報誌 AIKOH 第70号発行
22(日)	冬至
25(水)	施設長会議
26(木)	業務執行理事会
27(金)	仕事納め／各事業所に挨拶（理事長他理事等）
31(火)	大晦日
1/1(水)	元旦
6(月)	仕事始め
8(水)	2020年度新卒採用試験（第5回）／津久井やまゆり園事件初公判
10(火)	業務執行理事会／職員合同新年会
13(月)	成人の日

### □これからの予定

1/25(土)	理事会
2/1(土)	あいこうフォーラム「高齢の方や障害のある方が安心して地域で暮らしていくための知識」
2/9(日)	職員実践発表会

## ■おもな出来事

### □千葉県指導監査

11月20日（水）に行われました千葉県による指導監査は、ルミエール・めいわ・リホープ・佐倉市よもぎの園・はちす苑でした。後日文書（12/3・12/26）で指導のあった事項は次の通りでした。

- ① 佐倉市よもぎの園・利用者に対して前年の平均工賃額と当年度の目標設定工賃額を文書で通知すること
- ② 特別養護老人ホームはちす苑・運営規程に「施設の利用に当たっての留意事項」及び「緊急時等における対応方法」を追記すること。なお、運営規程の変更に当たっては、県高齢者福祉課に届け出ること  
○助言として・介護福祉士の登録証の（結婚等により）氏名欄に変更の生じた職員に対し、変更手続きを進めること
- ③ ショートステイはちす苑・事業所の名称や入退所年月日等の必要な事項を利用者の受給者証に記載すること

以上の指摘事項について、関係書類・規程を改め、必要な改善措置を講じました。なお、ルミエール、めいわ、リホープの各施設の運営管理状況については文書による指摘等はありませんでした。

### □はちす苑増築工事完了

8月末から実施していたはちす苑の特別養護老人ホームの増築工事は、12月19日無事終了し、施主検査及び引き渡し完了しました。2020年1月1日付で千葉県からの認可通知も届き、4床の増床となり54名の定員となりました。これによって多少ですが地域への貢献と収支の改善につなげられればと思います。

### □「あいとひかりのコンサート2020」の詳細決定

通算8回目を迎える愛の灯台基金のチャリティ・イベント「あいとひかりのコンサート2020」は、児童向けのイベントに決定しました。法人が、児童センターや学童保育所の指定管理を受ける中で、児童や子ども向けの企画をとの要望を受け入れる形となりました。詳細は以下の通りです。ふるってご参加ください。

#### ○ロビンフッドの冒険（劇団飛行船）

○日 時 2020年6月13日（土）13:30～15:30

○会 場 佐倉市民音楽ホール

○チケット ¥2,000（全席自由・3歳児～）

○チケット取り扱い：後援会愛の灯台基金事務局（043-484-6398）

○劇団飛行船は、「幼い胸に美しい夢と感動を」をモットーに掲げ、世界名作童話を中心に着ぐるみや造形に飾られた衣装を身にまとったアクターが演じるマスクプレイミュージカルの上演を行っている劇団です。スケールの大きな舞台は家族三代で楽しめます。

## ■月報から

### □師走の情景あれこれ

#### <5年ぶりの帰省／めいわ>

12月16日両親に会うため、利用者の帰省に職員が同行した。最後に帰省したのは5年前。これまで父親を母親が介護しているため帰省が難しかった。近況報告は電話や手紙などで伝えてきたが、5年ぶりに一人息子に会って、涙が止まらない母親。めいわから本人を自宅へ連れていけると話をした時には、母親は「家に来たらめいわに帰りたくないというかも……。だからいいです。」と遠慮していたが、実際に会うと誰よりも喜んでいたのは母親だった。

#### <師走の作業／佐倉市よもぎ園>

当月は新年の福袋作業（レトルトカレー封入）や一足早いバレンタイン商品（チョコレートの箱詰め）のセット作業を行った。両作業共に食品の取り扱いであるが、スムーズに作業を進めることができ、年内に無事納品することができた。新年になり、職員が作業で取り組んだ“福袋”が掲載されているチラシを持ってきた。作業に従事した利用者に見せると「やったねやったねカレー」「あれやったやつだよ」と一様に利用者から笑みがこぼれた。ある利用者は、チラシをもって職員に見せて回り自分たちが行った仕事だとうれしそうに説明していた。“仕事の達成感”を味わいながら新しい年が始まった。

#### <忘年会／はちす苑>

15日（日）はちす苑の忘年会を開催した。今年は寿司が食べたいとの要望が聞かれ、実行委員がどのように提供するか模索しながら準備を進めた。中には生ものの寿司が嫌いな方もいる。太巻き寿司やいなり寿司を用意しながら、粥食の方にはマグロが食べられるように配慮した。当日は心配をよそに大好評を期した。利用者の息子さん夫婦やその子供たち、配偶者のみの参加もある。利用者だけの参加には職員が隣に付き添ってくれ、声をかけて盛り上げてくれる。血のつながりはなくても職員は家族と同じではないかと思った。「また来年忘年会やりましょね」と言った一言が、利用者の明日への活力になると感じた。

#### <愛光ほっとタイム「クリスマスコンサート／南部児童センター」>

15日（日）音楽ウインド・オーケストラを招いて「第2回クリスマスコンサート」を開催した。前日までに、80名の申し込みがあり、うれしい悲鳴と言いたいところだが、会場に入れるのかという心配が出てきた。当日は立ち見や会場の外までお客さんであふれた。コンサート後半、サンタクロースも登場し、ボルテージは最高潮に！

アンコールは、幼児事業でいつも行っている「エピカニクス」（ダンス）。子どもたちは踊りだし、その様子を見て一緒に踊りだすママたちもいた。みんなで楽しんだクリスマスコンサートになった。曲目は、「未来予想図」（ドリカム）「エルクンバンチェロ」（応援曲）など盛りだくさん。参加した家族からは、「僕、野球部だったんで、燃えました（父）」「付き合ってるころを思い出しました（母）」など。208名の参加者であった。

## □利用者への贈り物

視覚障害者支援イベント「声の花束」主催の吉成庸子様よりご寄付をいただき、利用者のIT支援関係の機器を購入した。購入した機器は、パソコン、スクリーンリーダー、ニュース読み上げソフト、インターネット読み上げソフト、デジタル書籍の読み上げソフト、音声図書を聞くためのポータブルレコーダーである。以前からパソコンを使用して電車の音や動画を楽しむ利用者はいたが、数名に限定されていた。新たなソフトを使うことにより、簡単な操作で情報を得たり、本を読むことができることになった。今後希望者を募り、基礎的な使い方の訓練を行いながら利用を広げたい。また、ポータブルレコーダーについては、利用者の集まる場で、音楽はもちろん、映画のサウンドに登場人物の表情や動作、画面の様子を説明する音声解説をつけて編集された「シネマデイジー」を聞く機会も設けたいと考えている。心豊かな時間が過ごせるようになればと願っている。

(リホープ課長 稲垣直子)

## □地域生活の礎として

日中一時支援事業の利用者で、家以外で日中の居場所がなかなか定まらない方と関わっている。ワークショップかぶらぎが考える人の居場所とは、役割を見つけ、そこから人と繋がることだと学んできた。この方との関わりの中かで、かつて母親が自宅で生け花教室を開いていたことがあると話したことから、事業所で定期購入している生花を生けてもらうことになった。「ちゃんと教わったわけじゃないから」と謙遜するが、2週に一度必ず来て母親が教えていたという「未生流」を披露してくれている。職員会議で、今年度の事業所のスローガン「地域生活を支える礎になろう」を振り返る機会を得た。「礎」というには、まだまだ小さな関わりだが、この方がワークショップかぶらぎで花を生けるという役割をきっかけに、自分の居場所があるという安心と、生きがいをもった地域生活が見えてくれば良いと思っている。

(ワークショップかぶらぎ主任 宮部和樹)

## □中学生認知症サポーター養成講座

9日(月)圏域の中学校で中学1年生を対象にした認知症サポーター養成講座を開催した。中学生に楽しく認知症を学んでもらうため、毎年地域包括支援センター職員による寸劇を行っている。認知症の方への「良い対応」「悪い対応」を見てもらった上で、生徒さん達にも実演してもらった。講義後は、「こういう時どうしたらいいですか?」といった質問も飛び交い、熱心に聞いてくれた印象を受けた。

終了後、校長先生からお話を伺ったが、寸劇に参加してくれた男子生徒は、普段自分からは前に出ない生徒さんで、先生方もビックリされたとのこと。なかなかうまく話せない様子もあったが、周りから「がんばれ!」という声援が飛んでいたのを、先生方は感動して見られていたとのことだった。そのような話を伺い、私達職員も胸が熱くなった。そしてまた、来年度の講座が楽しみにもなった。

(総合相談センター所長 森由美子)

## ■職員状況(12/31現在)

	人数	前月比
正職員	162	1
サポート職員	42	2
非常勤職員	153	-3
計	357	±0

- 採用 2名(正職員・サポート職員)
- 雇用形態変更1名(非常勤→サポート職員)
- 退職 2名(非常勤)